

片瀬のぞみだより

日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2025 年 6 月号

家庭通信 2025 No.7

「少しずつ漂うキリストの香り」

5 月 7 日の水曜日には、「母の日礼拝」を行い、みなさんと共に讃美歌を唄い、共に祈りを合わせ、礼拝をお捧げすることができ、嬉しい時となりました。ひよこ組の子どもたちも少しずつ礼拝を覚えて、「アーメン。」が言えたり、十字架を指さして「あそこにもあるね。」など、一人一人が自分のペースで神さまに近づいているなど微笑ましく感じます。もちろん、神さまに近づいているのはひよこさんだけではなくありません。すずめさんやはとさんは、礼拝を通じてもっともっと神さまの近くにいることができます。そして、先生たちもです。

こんなエピソードがあります。まだ、私が片瀬のぞみ幼稚園に来て間もない頃、私自身もやる気と「ちゃんとした先生でありたい気持ち」でまっしぐらでした。礼拝の時、子どもたちが足をバタバタさせたり、大きな声をだして遮ったりする姿が見られるとここぞとばかりに「ほら、今、何の時間ですか。」とか「いけません、今はその時ではありません。」と子どもたちのしてほしくないところばかりに気を取られ、注意や諭すことに一生懸命先生でした。それを見ていた主任の先生に、「子どもにばかり気をとられている流先生は、ちゃんと神さまに心を向けていますか？」と投げかけられました。ショックでした、恥ずかしくもありました。だって、言ってる先生ができてないじゃないですか。それから、これをきっかけに礼拝への姿勢が少しずつ変わっていきました。まずは、自分が心と体を神さまに向けられるようにと…。

そして、その頃から変わらず今でも、「まずは自分から」の心で子どもたちと礼拝を捧げています。さらにその心が先生たちに伝わって、年少からずっと礼拝をしてきたはとさんに伝わって、はとさんのカッコいい姿がすずめさんに伝わって、ひよこさんに届いていくように感じます。「れいはいのときはおしゃべりをしません。」とか「ぼくしせんせいのおはなしはちゃんとききましょう。」、「さんびかはきれいなこえでじょうずにうたいましょう。」など礼拝について指導的なお約束的なものを子どもに執拗に教えたりはしていません、むしろ、言わなさすぎるくらいです。それでも、子どもたちは毎年度、礼拝を重ねていくうちに、その姿勢が受け継がれ、ひとりひとりの姿勢ががやがて全体へと派生し、厳かな雰囲気となっていきます。今年度も礼拝中、隣のはと組のお兄さん、お姉さんの顔や立ち振る舞いを「？」顔で見つめているひよこさんたちを見ていると「それでいいんだよ。」と温かな気持ちになります。こうして、片瀬のぞみ幼稚園の子どもたちと先生たちは、「自分の気づき」から神さまと近づいていきます。そして、このような雰囲気が「キリストの香り」として、幼稚園全体の中で広がっていくのです。チョウチョウの幼虫の飼育やそら豆の皮むき、美味しいびわタイム…神さまからの恵み、キリストの香りをたくさん受けて、神さまが近くにいるくださる安心を子どもたちと感じ、喜び合いたいと思います。

園長 横山 流